

1. ヒメギフチョウ(アゲハチョウ科)

里山のウスバサイシンが群生している明るい林内に生息するが、森林開発やシカ増殖によるウスバサイシンの食害で減少しています。また、採取者の乱獲により減少していると言われています。



2. ヒメヒカゲ(タテハチョウ科)

本州生息地の北限とされ、ヒメカンスゲ等を食草とし塩尻市東部に生息していたが激減しています。



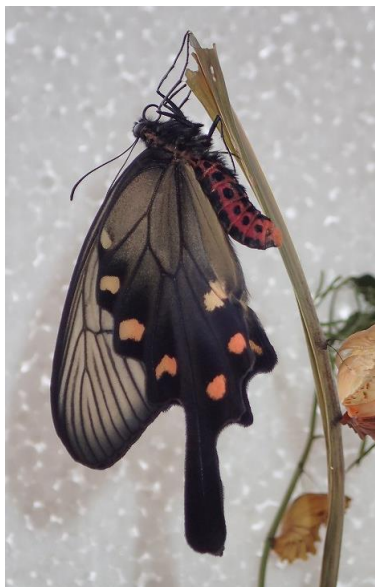
3. ギンイチモンジセセリ(セセリチョウ科)

ススキ・チガヤ等を食草とし、かつては農地周辺で普通に見られたが近年は減少して、高ボッチ高原等で観察できる程度となりました。



4. ジャコウアゲハ(アゲハチョウ科)

ウマノスズクサ等を食草として、局所的に生息しています。



5. ヒメシジミ(シジミチョウ科)

オオヨモギ・オオイタドリ等を食草として草地で生息し、トビイロケアリと共生関係にあるが、環境の悪化により減少しています。



6. ウラゴマダラシジミ(シジミチョウ科)

イボタノキ等を食草とし、湿地や沢沿いを生息地としています。オスは夕方活動し、メスはクリなどの白花に集まります。



7. ムモンアカシジミ(シジミチョウ科)

コナラなどブナ科の植物を食草とし、オスは夕方に群飛することが多く、オスメスともにクリの花によく集まります。



8. ベニモンマダラ(マダラガ科)

食草のクサフジ・ツルフジバカマが繁茂する日当たりの良い草地が減少しているので、生息地は局所的になってきています。



9. シンジュサン(ヤママユガ科)

ニワウルシ(シンジュ)・ニガキ・キハダ等を食草とし里山に生息しますが、雑木林の伐採等により減少しています。



10. スキバハウジャク(スズメガ科)

スイカズラ・アカネ・オミナエシ等を食草とするが、草地の開発により減少しています。

